

会員の声

規制委員会のあり方
－国会は活動の監視を強めるべき－

最近、原子力規制委員会の活動をめぐってメディア、新聞、雑誌等で規制委員の適格性や活動の方向性が取りざたされている。これらの記事については、すべて根拠を確認したわけではないので、そのまま同意するものではないが、一方で、規制委員会側の活動も様々な視点から見て、課題があることを示唆しているように思われる。

IOJでも原子力規制委員会の活動は日本の存立と国益へ大きな影響を与えていると考え、かねがね意見を述べてきたが、その大切さに鑑み、最近の活動状況から1～2の意見を述べてみたい。

理念と現実

何事をなすにも理念（理想）と現実がある。東日本大震災で東北地方が被害を受け、地震と津波により2万人を超える方が亡くなった。理想としては、起こりうる最大の大地震と大津波に耐える建築や港湾構造物に関する基準を法令化し、交通・電力などのインフラを整備し、数百年～数千年に一度の自然災害が有ってもびくともしない社会を作ることがのぞましい。しかし、それをすべてに要求すると極端な費用がかかり、実現することが出来なくなる。このため常識的に妥当な地震や津波が想定設定され対策が取られている。原子力以外の防災については、中央防災会議の対策にもそのような思想が盛り込まれている。

原子力においては、原子力規制委員会は「世界一の安全性を達成する」という目標を掲げている。このような理念を掲げることは素晴らしいことで決して反対ではないが、実際にそれを適用し要求すると、実現が難しい上に過大なコストを必要とし、肝心の原子力の利用意欲をそぐことにつながってしまう。現実的な世界標準を導入することが今の日本には求められているのであり、国力をこれ以上減衰させるような“世界一”の安全性を求めるべきではなかろう。



新基準

規制委員会から提案されている基準は、一般に具体物（予備の冷却系、フィルター付きベント設備、第2制御室の設置など）で表現されており、それをなぜしなければならないかの説明が不十分である。納得性を高めるためにリスク論的安全評価解析を使って、安全対策の効果とデメリットを量的に比較して説明すべきである。

さらにはもっと基本に立ち返り、安全性の基本理念、具体的安全目標、性能目標を規制委員会で最初に定めて、許認可を受ける事業者や関心を持つ国民が規制要求を予測でき、あるいは要求されたことが納得できるようにすべきである。

規制委員会の暴走抑止機能

規制委員会は福島第一発電所の事故の反省を踏まえて短期間の検討で発足させたものであり、事故の状況が相当に明らかになり安定した状態にある昨今、規制委員会の活動のあり方を国会において基本に立ち返って議論し必要があれば修正すべきであろう。

規制委員会の新安全基準案等は、必ずパブリックコメントにかけられると承知しているが、ステークホルダーのコメントがきちんと検討され反映されているかどうか国会での監視が必要であろう。一方、米国では、以下の組織による活動がなされている。

- ① 米国NRCには大学や国立研究所などの経験豊かで技術的に熟練した産業界や研究活動などの経験のある外部専門家からなる法定の独立した原子力安全諮問委員会（ACRS）があり、NRCに対してアドバイスをを行っているが、日本の規制委員会にはそのような組織がない。
- ② また、公聴会の開催を求められており、利害関係者に公聴会に参加する機会が与えられる。そして、公聴会に先立ち、NRCのスタッフとの非公式の会合、議論のために招かれ、懸念等について議論が行われる。日本では事前に基準の案を申請者に手渡し更迭されたのとは驚くべき差である。

そして、公聴会は行政判事と専門のスタッフから構成される原子力安全許認可会議パネル（ASLB）から任命された原子力安全許認可会議（ASLB）が開催する。ASLBは法律の専門家議長と技術的専門家の三人の行政法判事

（審判官）で構成される。

- ③ さらに、ASLBの一次決定に対して異議申し立てができ、原子力安全許認可会議控訴会（ASLAB）による審議を受けることができる。

米国では、議会に委員会があり、NRCの活動の監視を行っている。このような組織は日本の原子力規制委員会の活動をチェックするために有効であろう。日本もこのような仕組みを実現させたいものである。

日本の規制委員会は強力な権限を有するものであることから、その様な諮問組織は国会に付属させ、国民各層の意見を代表する国会議員によってアドバイスができるような、委員会の暴走抑止機能を持たせるべきであろう。

間もなく規制委員会の国会同意人事が行われるそうである。そうであれば、この時点で規制委員会の活動を総括し、各方面の提言を取り入れて必要な制度改革や仕組みの構築を実施すべき時は今においては無いと言えよう。

NRC は議会への証言も必要とされる



The screenshot shows the U.S. Nuclear Regulatory Commission (NRC) website. The header includes the NRC logo and navigation links for Nuclear Reactors, Nuclear Materials, Radioactive Waste, Nuclear Security, Public Meetings & Info Library, and About NRC. The main content area is titled "Congressional Affairs" and describes the NRC's role in keeping Congress fully informed of its regulatory activities. It mentions that the NRC's Office of Congressional Affairs is the main conduit for NRC communications with Congress and that NRC senior staff regularly meet with OCA to provide information to Congress and media. Below the main content, there is a list of topics related to Congressional Hearings, including Preparation of Testimony and Supporting Information, Initial Planning Meeting, Preparation of Testimony and Supporting Information, and Commitments and Post-Hearing Questions.

Chapter VII -- Congressional Hearings

- Preparation of Testimony and Supporting Information
- Initial Planning Meeting
- Preparation of Testimony and Supporting Information
- Commitments and Post-Hearing Questions